

HOGY MEDICAL REPORT 2020





ホギメディカルは医療関連製品のトップメーカーとして、顧客ニーズを的確に捉えた製品と安定した供給体制により、医療の安全と医療機関の経営改善に貢献しています。

当社は1961年の会社設立以来、一貫して医療機関に携わる方々と常に密接で良好な関係を構築しつつ、同時に、医療現場の安全と医療機関の経営改善に寄与する製品の開発と安定的な供給に注力してまいりました。医療現場の声にきめ細かく対応し、患者様、および医療従事者の皆様の安全に寄与する製品をご提供し、医療施設の経営最適化のためのご提案を行っています。激変する市場環境に迅速に対応し、最新の顧客ニーズを的確に捉え、それらを製品の改良・改善に反映させると共に、医療施設の経営状態の把握・分析を行うことで、一層効率的な手術室の運営を目指しています。万全の安全対策を実施した工場で生産した製品は、患者様および医療従事者の皆様の安全を確保します。

主力製品は、院内感染防止を目的として、1964年に販売を開始したメッキンバッグから始まり、医療用不織布製品、キット製品、製品・物流・情報管理の総合システムである「オペラマスター」へと進化してまいりました。特にキット製品は、従来単品で集めていた手術で使用する医療材料を一部セット化することによって、手術準備の手間や時間を削減することに貢献しています。さらに、「キット製品・物流・情報管理」の3つを基軸としたトータル・サービスである「オペラマスター」では、医療機関の「収益の向上・安全性の確保・業務の効率化」を支援することを目的とし、製品をご提供するだけでなく、医療現場の効率化や医療機関の経営合理化に寄与するご提案を行っています。さらに、近年は顧客のメリットを最大限に追求し、「働き方改革と医療安全」に大きく貢献する新形態の「プレミアムキット」の販売拡大を推進しつつ、その他新製品の開発・販売に注力しています。

目次

- 01 プロフィール
- 02 At a Glance (企業理念と事業概要)
- 04 ホギメディカルの歩み
- 08 トップメッセージ
- 14 新キット工場
- 16 製品紹介
- 24 ESG情報 - 環境対応、社会との関わり、コーポレート・ガバナンス
- 28 財務ハイライト、フィナンシャル・レビュー
- 32 連結財務情報 - 貸借対照表、損益計算書、包括利益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書
- 38 ネットワーク
- 40 会社情報
- 41 株式の状況

企業理念

当社は、「社業を通じて医療進歩の一翼を担い、
人々の健やかな生命と幸福に尽くし、
もって社会の繁栄に寄与する」を社是とし、
患者様・医療従事者等の安全と
医療機関等における経営改善に貢献できる製品
およびシステムをご提供しています。

もっと安全、もっと効率的に 〈ホギメディカルの事業ドメイン〉

医療現場のニーズにきめ細かく対応した様々な製品と安定した供給体制により、医療機関における安全で効率的な手術室の運営と理想的な病院経営をサポートします。

医療安全に貢献する事業



キット製品
安全性と合理性の追求
▶P.18



メッキンバッグ
高度な性能と利便性
▶P.18



医療用不織布製品
より高い安全性と機能性
▶P.19



医療用関連製品
多彩なツールで、
医療の現場をサポート
▶P.19

R-SUD R-SUD事業 (単回使用医療機器の再製造事業)
資源の有効活用、および環境保護に貢献
▶P.12,25



シュアファインド(SuReFlinD)
微小肺がんの切除をより確実にサポート
▶P.23



プレミアムキット
誰でも、安全に、スムーズに展開
できる「オールインワンキット」
▶P.10,13,14,15,16,17



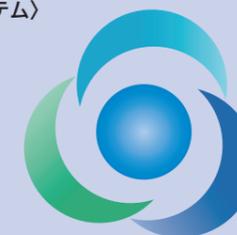
SCM構想
(サプライチェーンマネジメント構想)
手術に必要なすべての医療材料を
ジャスト・イン・タイムでご提供
▶P.17

低侵襲

身体への負担の少ない
低侵襲治療を、
より安全・効率的に
〈低侵襲手術用 機器〉

医療経営に貢献する事業

〈サービス・システム〉



オペラマスター
より高度な運営効率化を必要とする
病院群に大きく貢献
▶P.20



OPERA Note
クラウドサービスを通じた
院内情報の共有
▶P.22



手術室マネジメントサービス
管理データを総合的かつ
詳細に分析
▶P.21



EMARO® (内視鏡用ホルダ)
高い安全性と優れた操作性を実現
▶P.23

医療安全と医療機関の収益改善に貢献

当社は会社設立以来半世紀以上にわたり、医療現場のニーズを常に先取りした製品を開発してきました。今後も引き続き、医療機関との信頼関係を構築しつつ、より安全な製品の安定的供給に取り組み、医療安全と医療機関の収益改善に貢献する製品の開発に注力してまいります。



保木記録紙販売株式会社



柏工場



不織布製品



美浦工場第一



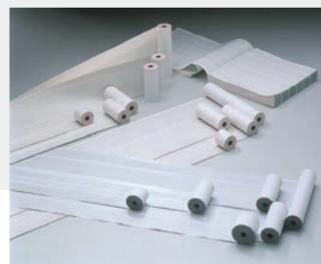
江戸崎配送センター



美浦工場第二



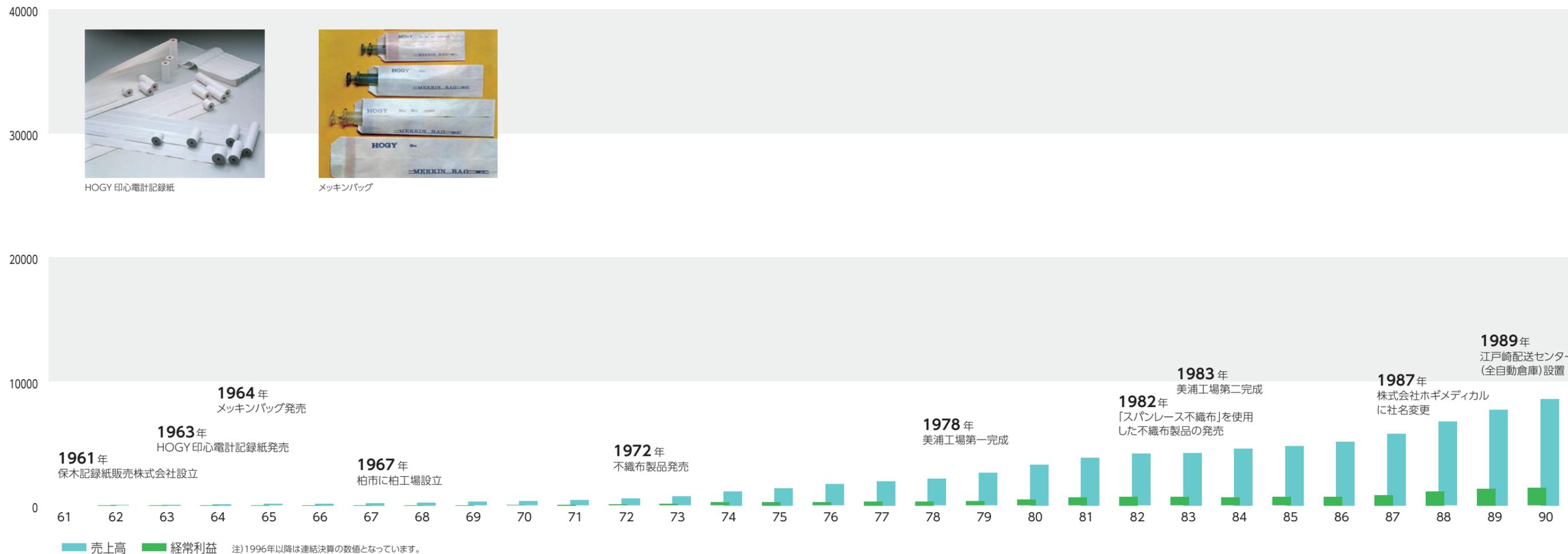
スパンレース不織布



HOGY 印心電計記録紙



メッキンバッグ





江戸崎滅菌センター



筑波滅菌センター



本社ビル



キット製品



EMARO®



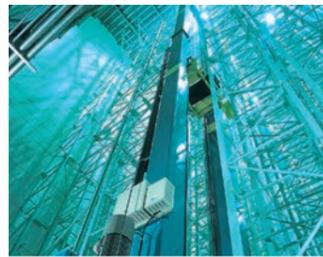
プレミアムキット



東京営業所



P.T. ホギ インドネシア第1工場



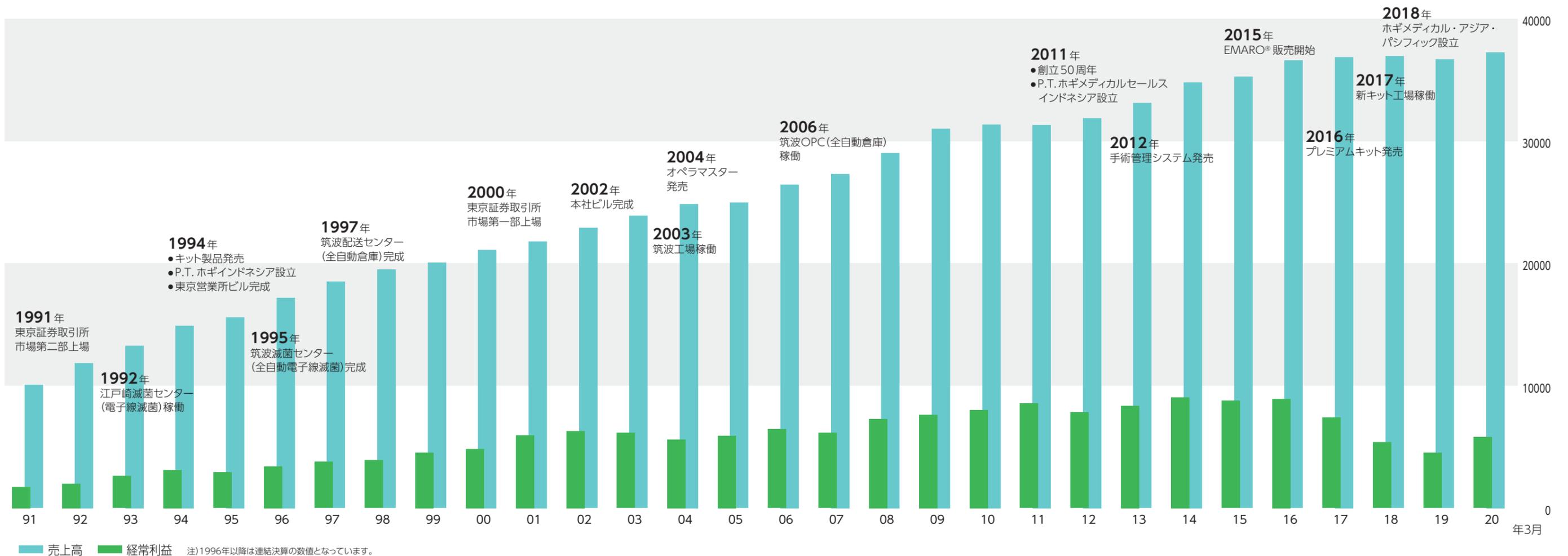
筑波工場



手術管理システム



新キット工場



代表取締役社長 兼 CEO
保木 潤一

医療の進歩に貢献すべく、患者様と医療従事者の方々の安全と、医療機関における経営改善のためのご提案を行ってまいります。また「プレミアムキット」の販売を通じてお客様の「働き方改革と医療安全」をサポートしてまいります。

第59期業績報告

当連結会計年度における国内経済は、製造業を中心に景気後退の見方が強まっていた中、さらに新型コロナウイルスの感染拡大による経済への影響が増大し、先行き不透明な状況が継続しました。

医療業界におきましては、「地域医療構想」実現に向けた病院再編統合の動きや、診療報酬改定にも組み込まれた医療現場の「働き方改革」が進められている中で、今般の新型コロナウイルスが発生し、現在、感染拡大防止に向けて全力で取り組んでいます。

このような環境の下、当社グループでは、政府が掲げる「地域医療構想」の基本方針により、今後手術の集中化と効率化への対応を迫られる急性期医療機関に対して、「働き方改革と医療安全」を提供価値とする「プレミアムキット」の提案を積極的に展開してまいりました。

当第4四半期以降は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療機関への製品の安定供給を最優先に、全社員で感染拡大防止に努めていくことを基本に対応しています。

「プレミアムキット」は、高い安全性や費用対効果などの製品特性に加え、手術の準備・展開作業の軽減に向けたソリューションの提案活動が浸透し、売上高が伸長しました。

キット製品全体では、販売予定の医療機関への新規販売不足や他社との競争などがあったものの増収となりました。その他の一部の製品では、新型コロナウイルス感染拡大により一時的に売上高が増加しました。

この結果、当連結会計年度の売上高は37,232百万円(前期比1.6%増)となりました。キット製品の売上高は22,485百万円(同3.0%増)、内「プレミアムキット」の売上高は10,302百万円(同33.7%増)となりました。売上原価は、償却費が減少したことなどにより前期に比べ原価率が改善しました。販売費及び一般管理費は、効率的な経費の使用に努めたことなどにより前期に比べ減少しました。

この結果、営業利益は5,307百万円(同21.1%増)となりました。経常利益は、新キット工場の牛久市助成金収入等があり5,791百万円(同28.6%増)となりました。また、株式の一部売却による特別利益1,942百万円(前期は3,998百万円)等を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は5,529百万円(8.5%減)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度において非連結販売子会社であったホギメディカル アジアパシフィックPTE. LTD.を連結の範囲に含めています。

今後の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染拡大による経済への影響は計り知れず、先行きの情勢を見極めることは困難な状況となっています。

このような経営環境の下、新型コロナウイルス感染拡大による影響はあるものの、当社グループでは引き続き社員の衛生対策を万全にしつつ、お客様の「働き方改革と医療安全」に貢献するために、「プレミアムキット」の販売を通じて病院経営改革に貢献してまいります。

また、今後も需要拡大が見込まれる「プレミアムキット」の生産量増大と生産効率向上のため、新キット工場II期工事を着実に進めていくとともに、原価低減など経営効率化により一層努めてまいります。

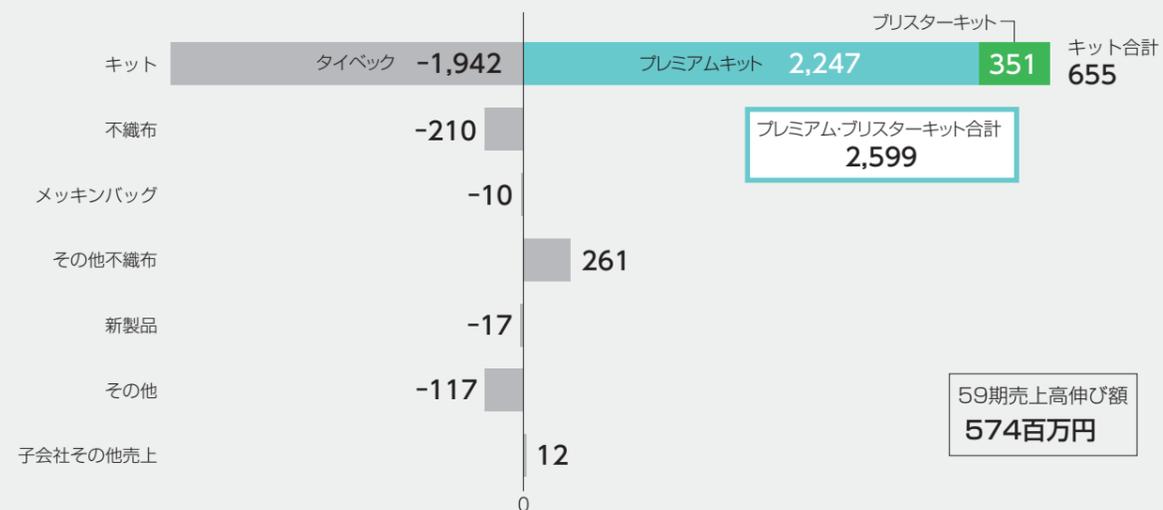
海外事業におきましては、シンガポールの販売子会社ホギメディカル アジアパシフィックPTE. LTD.および孫会社P.T.ホギメディカル セールス インドネシアが、ASEAN(東南アジア諸国連合)各国の主要病院への当社製品の販売を積極的に展開してまいります。また、製造子会社であるP.T.ホギインドネシアでは、引き続き生産性の向上に取り組むとともに内製化を推進してまいります。

新規事業である「R-SUD(単回医療機器再製造)」事業につきましては、検査・試験・再製造プロセスの円滑化と、許可申請および承認までのプロセスの迅速化を図ってまいります。

2020年6月

代表取締役社長 兼 CEO 保木 潤一

第59期(2020年3月期)主な製品の売上高伸び額 (百万円、端数切捨て)



新キット工場で、「プレミアムキット」の生産量増大と生産性向上へ

2017年に稼働を開始した「プレミアムキット」を生産している新キット工場は、少子高齢化が進み働き手が減少していく中、高品質な製品を安全で安定的に生産するための機能をハードとソフトの両面で備え、先進の機械やロボットによる自動化や、免震構造によるリスク対策など、当社が長年にわたって培ってきたノウハウが随所に活かされています。

当期は、今後も需要拡大が見込まれる「プレミアムキット」の生産量増大と生産性向上を目指して、II期工事の設備投資を開始しました。この新キット工場II期工事を着実に進めながら、さらなる医療機関の効率化と安全性の向上に貢献してまいります。



筑波工場全景



先進のロボット設備



プレミアムキット

ASEAN 各国での海外事業展開を拡大

当社の海外戦略は、これまでインドネシアを中心に展開してまいりました。現地子会社のP.T.ホギインドネシアは、当社のグローバル戦略を象徴する製造の重要拠点であり、第1工場・第2工場は、国際標準化機構(ISO)の「医療機器の品質保証のための国際規格」であるISO13485:2016の認証も取得し、世界でも有数の医療用不織布の製造工場としての地位を確立してまいりました。一方で、人件費が増加傾向にあるため、今後も省力化・自動化を推進することにより、生産性の改善を図るほか、さらなる医療材料の内製化を進め利益改善に貢献してまいります。

また、当社と三菱商事株式会社の合併会社としてシンガポールにおいて、2018年8月に設立しましたホギメディカル アジア パシフィックPTE. LTD.では、ASEAN(東南アジア諸国連合)各国で、「プレミアムキット」「セクレア」などの許認可取得を進めています。シンガポールの大型国立病院などでの「プレミアムキット」臨床試用を予定しているなど、販売孫会社 P.T. ホギメディカル セールス インドネシアとともに、今後もASEAN 各国の主要病院への販売活動を積極的に展開し、事業の拡大を目指してまいります。



ホギメディカル アジア パシフィック PTE. LTD.



P.T. ホギインドネシア 第1工場(上)、第2工場(下)

「R-SUD」事業は、順次許認可を申請

「R-SUD (単回使用医療機器再製造)」事業とは、使用を1回限りと定められている高額なSUD (Single-Use Device: 単回使用医療機器) を、使用後に医療機器製造販売業者が収集し、分解・洗浄・部品交換・再組立て・滅菌などの処理を行った上で、同一用途のSUDとして再び製造販売する事業です。

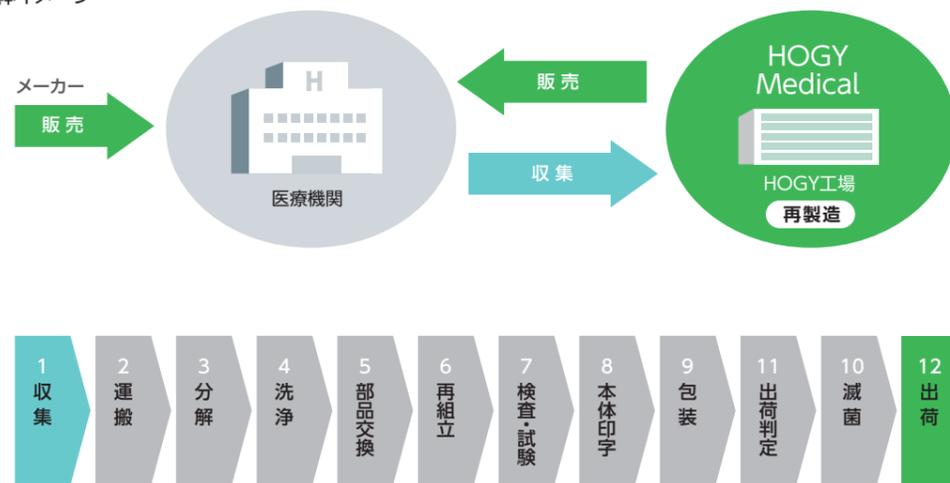
日本では厚生労働省が2017年7月に「R-SUD」に関する新しい制度の創設を発表、法令が整備されました。厚生労働省が「R-SUD」の推進を行う理由は、高騰する医療費の削減(医療材料費の高騰と人手不足による人件費上昇への対処)と、安全性の担保の2点にあります。また、資源の有効活用と環境保護にもつながることから、国内でのニーズが

高まることが予想されています。

美浦工場第一を一部改装し、検査・試験・再製造プロセスの円滑化、および許可申請・承認までのプロセスの迅速化を推進しているほか、準備が整った製品から順次許認可申請を行い、当期末までの申請数は合計3件となっています。

当社は今後、高度急性期・急性期病院の集約とそれに伴う手術の集中、労働人口の減少に対して、「プレミアムキット」や「R-SUD」を含む、手術に必要なすべての医療材料をジャスト・イン・タイムで提供する「サプライチェーンマネジメント(SCM)構想」を目指して、さらなる病院経営の効率化のご提案を行ってまいります。

R-SUDの全体イメージ



2021年3月期の配当金も、過去最高額を予定

当社は利益配分に関する基本方針として、創業以来培ってまいりました社訓「顧客、株主、社員、企業の共存共栄を図る」を念頭に、株主の皆様へ積極的に利益の還元を行う配当政策を重視し、また、経営成績の成果をいち早く株主の皆様へ還元するため、四半期配当を実施しています。

2020年3月期の配当金につきましては、各四半期とも16.5円、通期で2円増配の66円と、過去最高の配当額となりました。

2021年3月期の連結業績予想につきましては、売上高38,700百万円(前会計年度比3.9%増)、営業利益6,400百万円(同20.6%増)、経常利益6,830百万円(同17.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益5,300百万円(同4.2%減)を計画しています。また、2021年3月期の配当金につきましては、各四半期とも17.0円、通期で2円増配の68円を予定しています。

今後の見通しと中長期戦略

「働き方改革と医療安全」提案による「プレミアムキット」売上増を計画

現在、医療機関においては新型コロナウイルスの感染拡大が大きな影響を及ぼし、感染防止対策に向けた医療体制の整備・強化等への対応を余儀なくされており、経営環境の悪化、人的リソース不足や材料の安定購入不安など様々な問題が出てまいりました。

また、厚生労働省が公立病院などの再編統合の議論が必要としたリストを公表するなど、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、「地域医療構想」実現に向けた病院の再編・統合への動きが進められております。

2020年度の診療報酬改定では、厳しい財政の影響もあり、全体でマイナス改定となりました。薬価・材料部分のマイナスに転じた一方、本体部分では「働き方改革」推進分を含め0.55%のプラスとなるなど、今後もより一層国の促進する施策に費用が振分けられていくものと思われます。

こうした環境変化の中、今後益々業務が増え手術が特定病院へ集中するため、効率化への対応を迫られる急性期医療機関に対して、「働き方改革と医療安全」に貢献するためのツールとして、手術周辺を効率化する「プレミアムキット」の提案を積極的に展開しています。

当社の「プレミアムキット」は、簡便に過不足なく統一された手術準備ができるよう、術式ごとに必要な医療材料が適切な順番でセットされた「オールインワンキット」となっています。

術前のピッキング作業を大幅に削減して手術準備時間を短縮できるため、少人数での手術対応や時間外労働の削減など、医療機関の人的リソース不足や「働き方改革」の実現に大きく貢献します。

安全性の面におきましては、必要な医療材料が使用する順番でセットされていることにより、手術直前での準備が可能となるため、展開された医療材料の長時間放置を防ぐことができます。

さらに、生産面からはロボットによる自動化により、極力人の手を介さずに製造するため、付着菌数・異物混入のリスクが低減され、入れ間違いなどの人為的ミスも防止することができ、使用面と生産面の両方から「医療安全」の向上に貢献してまいります。

当期の販売状況につきましては、「プレミアムキット」を活用した「働き方改革と医療安全」の提案を実施するとともに、特に効果が出やすい術式への提案を中心におこなった結果、新工場で製造している「プレミアムキット」ならびに「プリスターキット」の59期累計売上高は10,308百万円(前連結会計年度比:2,604百万円増)と、当社グループの主力製品に成長しました。また、第4四半期における「プレミアムキット」「プリスターキット」のキット製品内での売上高構成比は48.5%、数量構成比では32.4%と順調に拡大しています。

当社は今後も、特に高度急性期・急性期病院を対象に「プレミアムキット」を中心としたキット製品導入による経営改善の提案に注力し、医療機関における「働き方改革と医療安全」に貢献してまいります。さらに、医療機関での人員不足が加速する可能性を踏まえ、「安定供給」と手術準備の「効率化」および「安全性向上」に寄与する経営効率化のソリューションとしての「プレミアムキット」提案を積極的に強化、展開してまいります。また、「地域医療構想」を軸とする病院再編統合の動きを大きなチャンスと捉え、変化を先読みし常に先手を打つ姿勢で、さまざまな施策に取り組んでまいります。

感染症防護製品の安定供給への対応

当社グループは、これまで長きにわたり不織布製品を提供し続けてまいりました。今般の新型コロナウイルスの影響により、世界的に不足した感染症防護製品の安定供給に対する重要性が見直されていることを踏まえ、国内トップメーカーの責任と役割を果たすべく、特に医療機関での「医療材料不足」を解消するため、P.T.ホギインドネシアにてサージカルガウンをはじめとする不織布製品の製造拡大・増産を行い、より安定的な供給を実現してまいります。

高品質な「プレミアムキット」を 新キット工場で安全で安定的に供給。

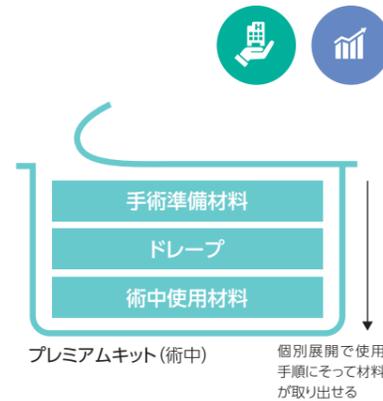
筑波工場はより高度な安全性を追求し、機械化による「製品不具合ゼロ」と、お客様の在庫負担を軽減するスピーディーな出荷・配送を目標にしています。すでに自動化されている滅菌センター・配送センターと連動し、一貫した生産ラインを実現しました。また、より安全で高品質な「プレミアムキット」の安定供給を目指して新工場を建設しました。新キット工場では、先進の機械やロボットによる自動化を推進し、ホギメディカルが長年にわたって培ってきたノウハウが随所に活かされています。変革の時にある医療現場を支えるための高品質な製品を、安全で安定的に生産するための機能をハード・ソフトの両面で備えた工場です。先進のロボットによる生産により、材料の入れ間違い等の人為的なミスを削減、人の手作業によって起こる菌の付着や異物混入の可能性を削減します。また、建屋では免震構造の採用によって、震度7の地震にも耐えられる設計であり、地震の揺れが建屋に伝わりにくくなっています。これによりロボットの転倒などを防ぎ、地震直後からの生産が可能です。



プレミアムキット

効率化と安全性向上の実現に大きく貢献する「オールインワンキット」

従来の手術キットは、術中に必要な医療材料がまとめられ、術前・術後に必要な材料は、個別にピックアップして揃えるというものでした。それに対して、当社の「プレミアムキット」は、術前・術中・術後に必要な医療材料がすべてパッケージ化されており、誰でも、安全に、スムーズに展開できる「オールインワンキット」となっております。これにより、術前準備の大幅な削減による「働き方改革」や作業手順の平準化による効率化と安全性向上の実現に大きく貢献します。また、時間の節約にともなう手術件数の増加および、収益の向上などにもつながります。



従来キットとプレミアムキットの比較

	従来キット	プレミアムキット
生産	人手によるピックアップと包装	ロボットによる生産 <ul style="list-style-type: none"> ● 異物混入リスクの低減 ● ヒューマンエラー防止 ● 清潔度が高い
納期	受注から14日～30日	受注から5日 <ul style="list-style-type: none"> ● 在庫の削減 ● 内容変更の期間の短縮
地震対策	耐震構造	免震構造 <ul style="list-style-type: none"> ● 地震発生後も速やかに安定供給が可能
包装形態	全体が不織布で包まれている	透明包装 <ul style="list-style-type: none"> ● 開封前に内容物の確認ができる
	一度に全内容を展開	使用の順に従って個別包装 <ul style="list-style-type: none"> ● 広い場所で展開できる
準備手順の平準化	ドレープの順を指定できる	ドレープの順とセッティング部材の位置も指定できる <ul style="list-style-type: none"> ● より高い清潔度が保てる ● ドレーピングの順を暗記する必要がなくなる ● 必要がない
	器械台上での移動が多数回必要	器械を展開した後に清潔な材料が出てくる <ul style="list-style-type: none"> ● ドレープ順が入れ替わるリスクがない ● ドレーピングの順を暗記する必要がなくなる ● 医師、看護師、ともに手術中のストレスが低減
荷崩れ対策	展開時に荷崩れのリスクがあった	荷崩れを起こしにくいパッケージを採用 <ul style="list-style-type: none"> ● 汚染への注意の軽減 ● 材料・時間のロスの低減
展開効率	5工程	3工程 <ul style="list-style-type: none"> ● 一症例平均8分の準備時間削減
対応範囲の拡大	キット内容がひとまとめでなった包装	シーンごとに細分化された個別包装 <ul style="list-style-type: none"> ● 準備時間の削減 ● SPDなどの業務の見直し ● 少人数での運用ができる

ブリスター容器の主な特長

ブリスター容器を使用した包装形態の改良により、利便性が向上します。

- 透明なパッケージで内容物の確認が容易
- 開封が容易なイージーピール方式を採用
- 展開時に荷崩れが起きないように設計
- 材料を入れたまま、まとめた移動が可能
- 柔らかいが、手では裂けない強靱なフィルムを採用
- 空になったブリスター容器をトレーとして使用可能

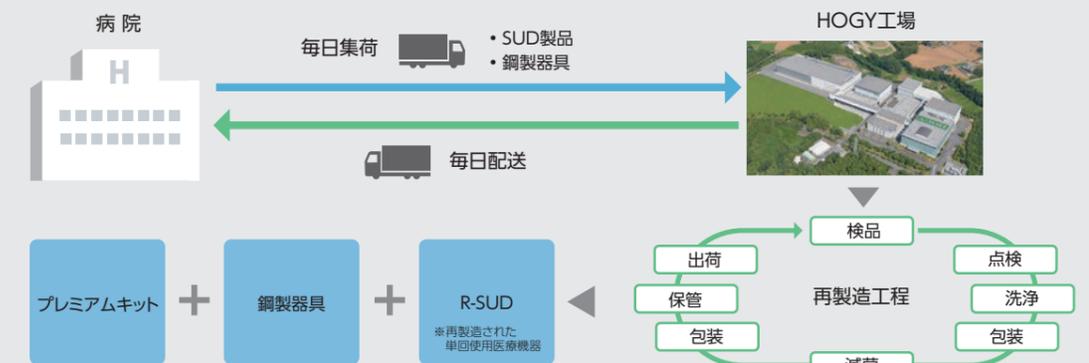


「プレミアムキット」でご提供できること

- ☑ 医療スタッフの業務低減によって早朝出勤・残業を削減し、医療機関における「働き方改革」をサポートします。
- ☑ 在庫ロスや間接業務の時間を見直すことで手術に対応できる時間を増やし、手術利益率の上昇が期待できます。
- ☑ ロボットによる生産で人手が介在しないため付着菌数や異物混入のリスクが低減し、安全な製品をご安心してお使いいただけます。

中長期的戦略 SCM(Supply Chain Management) 構想

将来手術件数の増加が予想される高度急性期・急性期病院には、「プレミアムキット」や「R-SUD (再製造された単回使用医療機器)」を含む、手術に必要なすべての医療材料をジャスト・イン・タイムで提供する「サプライチェーンマネジメント (Supply Chain Management : SCM) 構想」を見据えた、さらなる病院経営改善のためのご提案を目指しています。

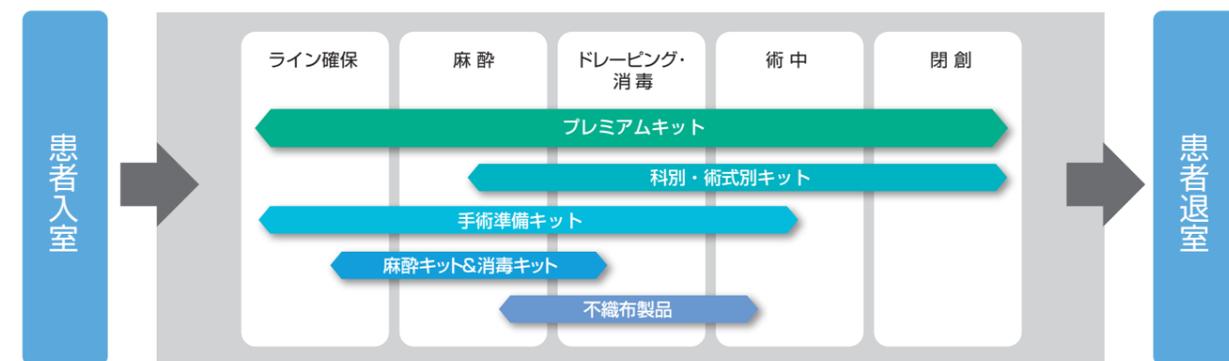


キット製品



手術室で使用する医療材料をセット化、安全性と合理性を追求した「キット製品」

当社の「キット製品」は、パッケージを開封すればすぐに手術準備が開始可能で、準備の手間や時間が大幅に短縮できます。また「キット製品」の導入によって、業務負担の軽減や人為的ミス、院内感染防止などのリスクの低減も可能となります。



メッキンバッグ



当社のメッキンバッグは、滅菌用包装袋の代名詞

滅菌用包装材には、滅菌用の蒸気やガスの容易な透過性ととも無菌保存のためのバリア性という、相反する性質が求められます。ホギメディカルでは、この条件に最適な素材として、特殊な微細構造を持つ滅菌紙を開発。院内感染防止の第一歩として1964年に「メッキンバッグ」を発売し、滅菌に対する高度な性能と利便性により急速に需要を拡大しました。現在では、滅菌用包装袋の代名詞となるまでに普及しています。メッキンバッグの歴史は、ホギメディカルの歴史とも言えます。



医療用不織布製品



より高い安全性と機能性を兼ね備えた不織布製品

当社は医療現場の感染防止に貢献すべく、1972年の発売開始以来、不織布製品の改良と発展に努めてまいりました。手術の進行を阻害しない軽さと長時間の使用に耐える強度、適度な通気性と高いバリア性能、それらのすべてを高水準で保持しております。また、自社生産ラインによって、医療機関のニーズに合わせた不織布製品のカスタマイズを可能としています。ホギメディカルの不織布製品は、医療現場により高い安全性と機能性をご提供します。



医療関連商品



医療の現場をサポートする多彩な新製品やツールを開発

当社は、医療用記録紙の製造・販売からスタートした実績と歴史があります。現在も、医療の最前線で求められる機能を追求し、「鋼製器具用コンテナ」、鏡視下手術用スポンジ「セクレア™」、合成吸収性縫合糸「ホギPGA糸」など、医療の現場をサポートする様々な新製品やツールを開発し、ご提供しています。



オペラマスター

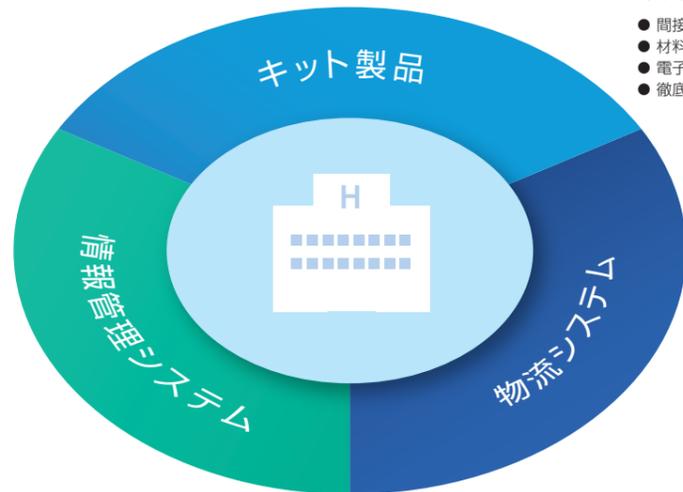
収益・安全性の向上と業務の効率化を目的とした「キット製品・物流・情報管理」の統合システム

2004年4月より販売を開始した「オペラマスター」は、キット製品・物流・情報管理からなるシステムです。中核をなす「キット製品」は、病院の術式・医師別に対応し、医療現場の効率化・省力化・手術の安全性向上に寄与するとともに、単品別の材料管理を不要とし、病院経営の効率化に貢献しています。物流面においては、手術の前日までに納入するというシステムを構築し、医療機関の在庫負担軽減に寄与しています。さらに情報管理面では、手術室の原価管理の情報等を提供しています。これにより複雑な原価計算を容易にするとともに、手術室の稼働率向上に寄与するご提案を行います。



情報管理によるメリット

- 手術予定管理(スケジューリング)
- 適正人員配置
- 在庫負担軽減
- 原価管理システム



キットによるメリット

- 間接業務の削減
- 材料管理
- 電子線滅菌
- 徹底した安全対策

物流によるメリット

- 最低単位(1キット)からの受注可能
- 在庫負担軽減
- 万全な物流体制

一步先の手術室運営をご提案

「オペラマスター」では、業務の改善計画をお手伝いする「PLAN」→キット製品、ピッキングリストによる実働作業の効率化をはかる「DO」→業務情報を自動集積・管理する「CHECK」→得られた情報をもとに、スタッフが新たな改善処置を提案する「ACTION」の4つのサイクルを繰り返し、病院の経営の改善を常にサポートし続けるシステムを構築しました。



手術室マネジメントサービス

継続的な情報収集と業務負担の軽減で、より効率的なコスト管理を実現

新サービスの「手術室マネジメントサービス」は、現行のオペラマスターに様々な情報収集ツールを追加し、そこから得られるデータによって、総合的かつ正確に手術室スタッフの業務状況や手術コストを把握できる仕組みをご提供します。さらに、得られたデータの集積と分析によって、手術室運用の効率化につながるご提案を行います。

ハードシステムの整備と、そこから集積される実績を分析できる機能が大きな特徴となり、手術室内を可視化し、より快適な手術室運営のために徹底したムダやムラの削減を目指します。継続的な情報収集と業務負担の軽減で、より効率的なコスト管理を実現します。これにより、収益の状況を把握しながら手術室の運営をすることが可能となります。



時間管理

手術計画の平準化、適正なスタッフシフトの作成で、手術室運営の時間を管理。誰でも正確・確実・素早く準備できる仕組みを構築。



タグ



ME 機器管理機能

在庫管理

正確な材料受払いシステムで在庫管理の手間と時間を省力化。購入・使用・請求の一括管理で請求モレの防止をサポート。



デジタルピッキングシステム



キット

原価管理

手術毎に得た各情報を集計し、原価管理を完全網羅。経営改善に直結する分析・改善を提案。



各種分析ツール



ME(Medical Engineering) 機器管理機能



ME 機器の安全管理向上と戦略的な経営推進に貢献

ME 機器管理機能は「手術室マネジメントサービス」の一機能として、ME 機器の活用や保守に関する情報を自動的に集積・分析し、経営に役立てることを目的として開発されました。専用タグによって、院内の医療機器の稼働状況や位置を記録します。また、集められた情報は「手術室マネジメントサービス」の専用サーバーに集積され、各種レポートを作成することが可能になります。ME 機器管理機能では、ME 機器の使用状況や配置箇所を常時モニタリングすることで院内にある数百台の機器の状況を管理・把握し、戦略的な経営を推進します。

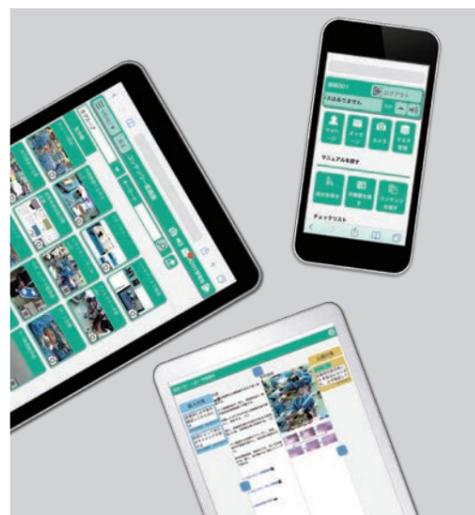


OPERA-Note (OPENO)



クラウドサービスを通じて院内情報を素早く共有、医療現場に貢献

OPERA-Note (OPENO)はクラウドサービスで情報を集約し、手術における看護の知識共有と整理・管理ができるツールです。スマートフォンやタブレット端末でのアクセスを可能にすることで、時間・場所を問わず、各々のスタッフのライフスタイルに合わせて情報共有することが可能です。OPERA-Note (OPENO)によって資料の整理、情報伝達における負担を軽減できるだけでなく、写真や動画による視覚的な情報を共有することができます。また資料の更新や管理、教育課程での記録や分析も容易になります。業務の効率化・手順の可視化・教育の充実・医療安全など、多くの利点を医療現場にご提供します。



OPERA-Note

EMARO® 〈内視鏡用ホルダ〉



高い安全性と優れた操作性を実現した内視鏡用ホルダ [EMARO®]

現在、医療機関において実施されている内視鏡外科手術では、カメラ助手(スコピスト)が術者より口頭指示を受けながら内視鏡を操作するため、手術内容の十分な理解や熟練が求められ、術者との円滑な意思疎通が必要とされています。「EMARO®」は、術者の頭部に頭の動きを検出するジャイロセンサーを装着することにより、内視鏡を直感的に操作することができ、術者はカメラ助手に口頭指示をすることなく両手が自由な状態で手術を行うことが可能となります。空気圧駆動によって高い柔軟性と制御性を実現し、外部からの力が加わっても衝撃を吸収するため安全に手術に臨めます。また、上下左右の操作だけでなく回転や前後の拡大縮小操作も可能であり、意思通りのアングルに内視鏡を動かすことができ、安全性と操作性に優れた内視鏡用ホルダとなっています。



シュアファインド (SuReFind)



微小肺がんをより確実に切除することをサポート

シュアファインドは肺切除手術において、微小肺がんをより確実に切除することをサポートする目的で開発しました。RFID (Radio Frequency Identification) 技術を応用した極小のICタグを、気管支鏡チャンネルを経由して病変付近に留置します。留置したICタグの位置情報をID番号と共にアプリに登録します。術中は手術用アンテナで肺表面からICタグを検知し、その検知位置を切除範囲の判断材料として利用することができます。診断機器が高性能化するにつれて、微小肺がんの発見は増加しています。シュアファインドは、今後増えていく肺がん治療における課題を解決します。



術前留置

ICタグを気管支に留置



術中検知

ドクター
アンテナでICタグ検知

手術用アンテナ

手術用タグリーダー

専用PC

ドクター
医療デバイスで検知

ドクター

ホギメディカルの環境対応、社会との関わり、コーポレート・ガバナンス

当社は、社是である「社業を通じて医療進歩の一翼を担い、人々の健やかな生命と幸福に尽くし、もって社会の繁栄に寄与する」にある通り、事業を通じて医療に貢献し、最終的には社会全体をよりよいものにしていくことを当社の経営方針の基盤としています。社会的責任を果たすため、環境保全活動や事業活動を通じての社会貢献を行い、また、コーポレート・ガバナンスを常に強化することにより、経営の透明性を高めてまいります。



医療費の削減と環境保護・資源の有効活用

R-SUD 事業(単回使用医療機器の再製造事業)

R-SUD事業は、医療材料SUD(Single Use Device：単回使用医療機器)を、使用後に収集し、検査・分解・洗浄・滅菌などの処理を行った上で、同一用途のSUDとして再び製造販売する事業です。

日本では、2017年7月31日に厚生労働省がR-SUDに関する新しい制度の創設を発表、法令が整備されました。医療機関のコスト削減効果が期待される他、医療安全や

資源の有効活用と環境保護にも繋がることから、国内でのニーズが増えることが予想されています。

当社は、中期戦略の一環として、現在、注力している「プレミアムキット」の販売に続き、医療費の削減及び医療安全と環境保護・資源の有効活用に大きく貢献できるR-SUD事業の許認可申請を行うための検査・試験を進めております。

地域社会の環境保全活動

ホテルの里プロジェクト

当社は環境保全活動にも力を入れています。2009年より、NPO法人「アサザ基金」、および牛久市役所と協力して、「谷津田」と呼ばれる湿地帯の耕作放棄地を水田として再生・復活させる「ホテルの里プロジェクト」に取り組んでいます。谷津田は、隣接する里山とともに、牛久沼の水源として水質浄化に重要な役割を果たしています。現在もメダカやカエルなどの多様な生き物が見られますが、低い山に挟まれた場所にあるため、営農コストの問題や減反の影響により、多くが荒廃した状態のままです。

そこで当社は、筑波工場に隣接する牛久市の耕作放棄地1.7ヘクタールを市から借り受け、無農薬で米を栽培し、かつての水田風景を再生するプロジェクトを開始しました。水路の引き方、米の栽培方法などは「アサザ基金」が指導し、作業には当社の従業員やその家族が参加しています。生態系の再生・保全も目指しつつ、田植え・稲刈りなどの農業体験を通じて、良き交流の場ともなっています。



コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は「株主重視」を標榜し、常に株主の利益を考えた上で、
 十分なコーポレート・ガバナンスが機能する体制を構築しています。

1 企業統治の体制の概要

取締役会は取締役6名(うち社外取締役2名)で構成し、迅速な経営判断ができるよう少人数で経営しています。取締役会は、毎月1回原則として6営業日目に開催し、重要事項はすべて付議され、業績の進捗についても議論し対策等を検討しています。また、執行役員制度を導入し、取締役会の戦略決定及び業務監督機能と執行役員の業務執行機能の分離を明確にすることにより、経営環境の変化に迅速に対応できる体制になっています。執行役員を含めた経営会議は原則として取締役会の翌営業日に開催し、各部から現状報告が行われ、議論のうえ具体的な対策等が決定されています。

監査役会は、監査役3名(うち社外監査役2名)で構成され、取締役の職務執行につき監査を実施しています。各監査役は重要な会議への出席、取締役等からの報告、重要な決裁書類の閲覧、子会社等の調査を実施しています。監査役全員で構成される監査役会は、監査の方針等を決定し、各監査役の監査状況などの報告を受けるほか、会計監査人からは随時監査に関する報告等を受け、必要に応じ随時情報の交換を行うなど相互の連携を高めています。

インドネシアに所在する子会社におきましては、当初より現地化政策を打ち出し、取締役は7名(日本人3名、現地人4名)で経営されています。財務データ等必要な資料は当社にすべて報告され、随時チェックできる体制が確立しています。

2 企業統治の体制を採用する理由

当社は業務執行における意思決定の迅速化、コーポレート・ガバナンスの確保を目的として現状の体制を採用しています。

3 内部統制システムの整備の状況

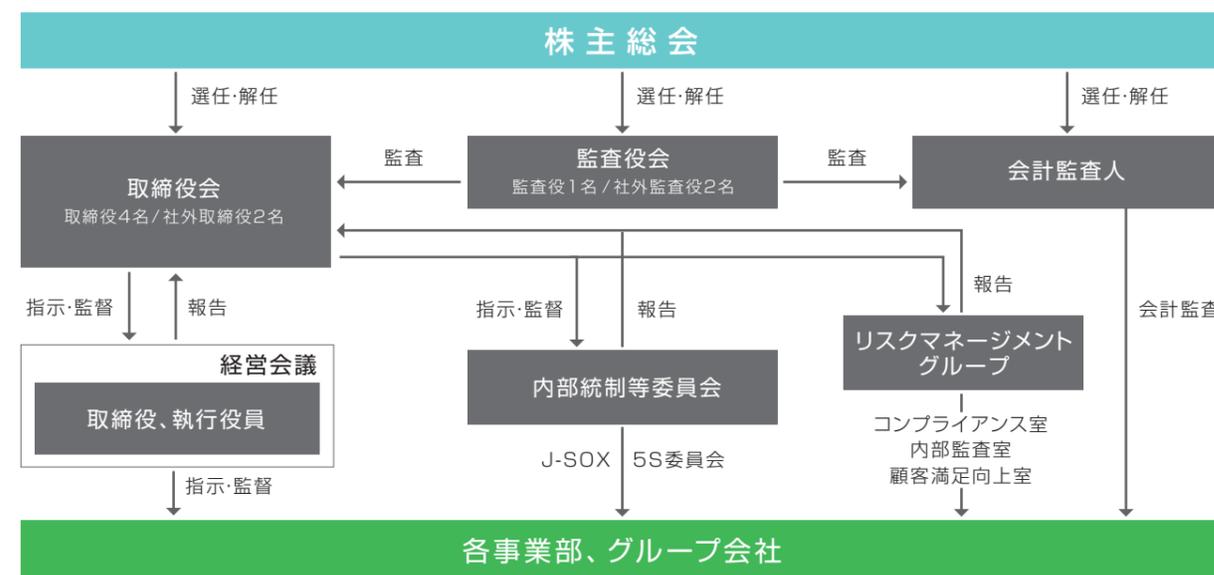
内部統制システムとしては、職務権限と責任を明確化するとともに、相互牽制機能を業務プロセスに取り込み適切な業務分掌を実施することにより、適切な業務執行を確保するための体制を確保していますが、適宜見直しを行い改善・強化に努める必要があるものと認識しています。取締役会は、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制を運用するため、「内部統制等委員会」及び「リスクマネジメントグループ」(当社の内部統制、コンプライアンス及びリスクマネジメントに係わる体制を構築し、当該体制の調査及び改善等を実施する組織。以下同じ。)を設置しています。「内部統制等委員会」の委員長は代表取締役社長が務めるものとし、「内部統制等委員会」の下に「J-SOX委員会」及び「5S委員会」を設置して毎月1回定例会議を開催し、活動内容は全て取締役会に報告されています。

4 リスク管理体制の整備の状況

リスク管理については、激しく変化する環境の中で企業価値の向上を図るため、当社を取り巻くリスクを適切に分析・管理することにより、損害の発生・拡大を未然に防止するとともに、顧客・投資家等の当社に対する信頼の維持・強化を図ることが重要であると認識しています。取締役会は、当社の経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクを認識及び評価し、その対処を行うとともに、平時における予防体制を整備しています。「内部統制等委員会」及び「リスクマネジメントグループ」は、取締役会と協力し、リスクの予防体制を整備するとともに、万一具体的なリスク発生時は、その拡大を防止し、再発防止策を講じています。具体的には、取締役及び取締役会を補佐し、各部門におけるリスクマネジメント体制を構築し、必要に応じ、規程等を制定し、周知徹底を行っています。また適宜、各部門からリスクを抽出し、取締役会に報告するとともに、当該リスクを低減するための措置を講じています。さらに、当社は当社の就業者による違法・不正行為を未然に防止し、また早期に発見して必要な措置を講じるため、内部通報制度を設置しています。

5 子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

- ・取締役会は、規程その他の方法により、子会社における業務及び子会社の取締役等の職務の執行の適正を確保するための基本方針及び運営方針を策定するものとします。
- ・取締役会は、子会社における業務及び子会社の取締役等の職務の執行の適正を確保するための体制を当社グループに構築し、毎月子会社から報告を受け、必要に応じ、子会社に対する指導を行うものとします。
- ・監査役及び監査役会は、子会社を含めた当社グループの連結経営に対応した監査を実効的かつ適正に行うことができるよう子会社及び会計監査人との緊密な連携体制を構築するものとします。



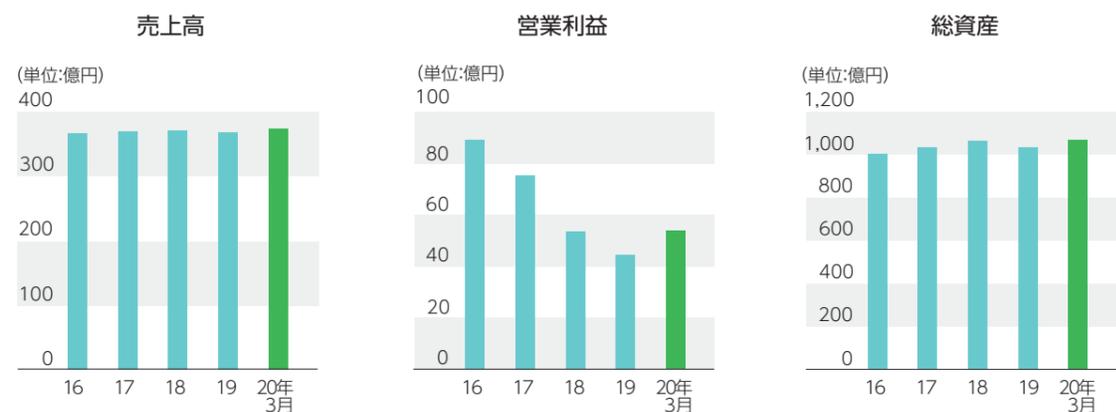
※ 2020年6月23日時点

	2016	2017	2018	2019	2020年3月
損益計算書データ (百万円)					
売上高	36,568	36,859	36,918	36,658	37,232
営業利益	8,784	7,443	5,273	4,382	5,307
経常利益	8,924	7,403	5,380	4,503	5,791
税金等調整前当期純利益	8,743	8,422	7,583	8,499	7,725
親会社株主に帰属する当期純利益	5,910	5,786	5,262	6,043	5,529
包括利益	6,119	4,406	6,287	4,196	4,339
貸借対照表データ (百万円)					
資本金	7,123	7,123	7,123	7,123	7,123
資本剰余金	8,336	8,336	8,336	8,336	8,336
純資産	87,610	89,629	94,063	91,404	93,921
総資産	99,963	103,196	106,153	103,327	106,664
有形固定資産	49,742	51,986	47,891	45,944	51,851
キャッシュ・フローデータ (百万円)					
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,809	10,066	8,367	7,446	10,295
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,669	△ 3,868	△ 1,807	1,627	△ 9,194
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,811	△ 1,877	△ 1,945	△ 6,958	△ 1,989
現金及び現金同等物の期末残高	11,993	16,244	20,840	22,903	22,658
1株当たりデータ (円)					
1株当たり当期純利益	187.90	184.53	168.04	198.31	183.07
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	-	-	-	-	-
1株当たり純資産額	2,784.89	2,863.12	3,002.44	3,027.43	3,104.33
その他のデータ					
自己資本比率 (%)	87.64	86.85	88.60	88.45	87.96
自己資本利益率 (%)	6.92	6.53	5.73	6.52	5.97
株価収益率 (倍)	16.07	18.99	25.56	19.69	18.38
設備投資額 (百万円)	15,784	5,844	4,077	1,913	10,144
減価償却費 (百万円)	3,376	4,409	6,235	5,631	5,283
研究開発費 (百万円)	403	485	430	789	607
発行済株式数 (千株)	32,682	32,682	32,682	32,682	32,682
従業員数 (人) ※1	1,521 (668)	1,489 (716)	1,472 (680)	1,502 (581)	1,538 (518)

注：1.端数は切り捨てて表示しています。

2.当社は2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。このため、2014年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり当期純利益」及び「1株当たり純資産額」を算定しています。

※1：従業員数は就業人員です。また、連結子会社の有期契約社員数は年間の平均人員を()外数で記載しています。



ファイナンシャル・レビュー (連結)

事業の状況

財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の概要

経営成績の状況

当連結会計年度における国内経済は、製造業を中心に景気後退の見方が強まっていた中、さらに新型コロナウイルスの感染拡大による経済への影響が増大し、先行き不透明な状況が継続しています。

医療業界におきましては、「地域医療構想」実現に向けた病院再編統合の動きや、診療報酬改定にも組み込まれた医療現場の「働き方改革」が進められている中で、今般の新型コロナウイルス感染問題が発生し、日々増加する感染拡大への対応に全力で取り組んでいる最中です。

このような環境の下、当社グループでは、政府が掲げる「地域医療構想」の基本方針により、今後手術の集中化と効率化への対応を迫られる急性期医療機関に対して、「働き方改革と医療安全」を提供価値とする「プレミアムキット」の提案を積極的に展開してまいりました。当第4四半期以降は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、医療機関への製品の安定供給を最優先に、全社員で感染拡大防止に努めていくことを基本に対応しています。

「プレミアムキット」は、高い安全性や費用対効果などの製品特性に加え、手術の準備・展開作業の軽減に向けたソリューションの提案活動が浸透し売上高が伸長しました。キット製品全体では、販売予定の医療機関への新規販売不足や他社との競争などがあつたものの増収となりました。その他の一部の製品では、新型コロナウイルス感染拡大により一時的に売上高が増加しました。

この結果、当連結会計年度の売上高は37,232百万円(前期比1.6%増)となりました。キット製品の売上高は22,485百万円(同3.0%増)、内「プレミアムキット」の売上高は10,302百万円(同33.7%増)となりました。売上原価は、償却費が減少したことなどにより前期に比べ原価率が改善しました。販売費及び一般管理費は、効率的な経費の使用に努めたことなどにより前期に比べ減少しました。この結果、営業利益は5,307百万円(同21.1%増)となりました。経常利益は、新キット工場の牛久市助成金収入等があり5,791百万円(同28.6%増)となりました。また、株式の一部売却による特別利益1,942百万円(前期は3,998百万円)等を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益は5,529百万円(8.5%減)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、前連結会計年度において非連結販売子会社であったホギメディカルアジアパシフィックPTE.LTD.を連結の範囲に含めています。

なお、セグメント情報の記載は、医療用消耗品等の製造・販売の単一事業でありますので省略しています。

財政状態の状況

当連結会計年度末の総資産は前連結会計年度末に比べ3,336百万円増加し、106,664百万円となりました。

流動資産は、受取手形及び売掛金652百万円の減少、原材料及び貯蔵品の226百万円の減少等により879百万円減少し43,229百万円となりました。固定資産のうち有形固定資産は、新キット工場Ⅱ期工事の設備投資等による建設仮勘定8,073百万円の増加、建物及び構築物270百万円の増加、機械装置

及び運搬具の減価償却等による2,401百万円の減少等により、5,906百万円増加し51,851百万円となりました。無形固定資産は、減価償却等による300百万円の減少により2,300百万円となりました。投資その他の資産は、投資有価証券の時価評価等による1,334百万円の減少等により1,390百万円減少し9,283百万円となりました。この結果、固定資産は63,434百万円となりました。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ820百万円増加し、12,742百万円となりました。流動負債は、新キット工場Ⅱ期工事の設備投資等による未払金1,624百万円の増加等により、1,173百万円増加し10,360百万円となりました。固定負債は、所有する株式の時価評価等に係る繰延税金負債370百万円の減少等により、前連結会計年度末に比べて352百万円減少し2,381百万円となりました。

当連結会計年度末の純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益5,529百万円の計上による増加、剰余金の配当による1,983百万円の減少、投資有価証券の時価評価等によるその他有価証券評価差額金1,070百万円の減少等により、前連結会計年度末に比べて2,516百万円増加し93,921百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の88.45%から87.96%へ減少しました。また、1株当たり当期純利益(EPS)は前連結会計年度の198.31円から183.07円へ減少、自己資本当期純利益率(ROE)は前連結会計年度の6.52%から5.97%へ減少しました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、以下に記載のキャッシュ・フロー及び新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加により22,658百万円となり、前連結会計年度末に比べ245百万円減少しました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益を7,725百万円、減価償却費を5,283百万円、投資有価証券売却益を1,942百万円計上し、未払消費税等の増加535百万円、売上債権の減少641百万円、法人税等の支払2,590百万円等がありました。これらの結果、キャッシュ・フローは10,295百万円となり、前連結会計年度に比べ2,849百万円増加しました。

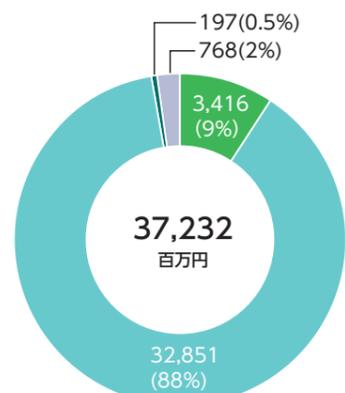
(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、新キット工場Ⅱ期工事の設備投資等による有形固定資産の取得による支出9,767百万円、投資有価証券の取得による支出1,163百万円、投資有価証券の一部売却による収入2,356百万円等がありました。これらの結果、9,194百万円の支出(前連結会計年度は1,627百万円の収入)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払1,984百万円、信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-Ship®)による長期借入金の返済による支出110百万円、自己株式の処分による収入106百万円等がありました。この結果、1,989百万円の支出となり、前連結会計年度に比べ4,969百万円支出が減少しました。

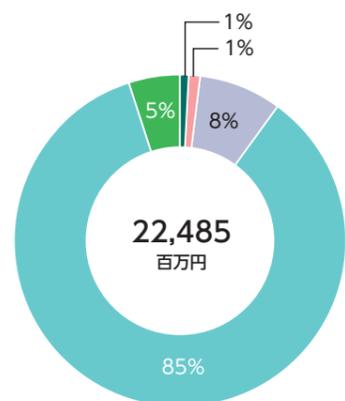
用品群別販売実績(通期)



2020年3月期

■ 滅菌用品類 ■ 手術用品類
■ 治療用品類 ■ その他
(単位：百万円、端数切捨て)

キット診療科別売上構成比

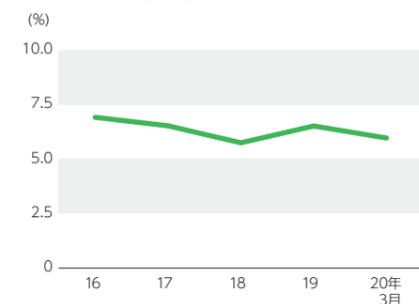


2020年3月期

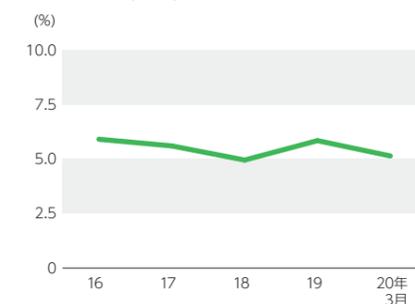
■ 病棟 ■ 麻酔 ■ 眼科
■ 外科等 ■ 放射線科

収益性

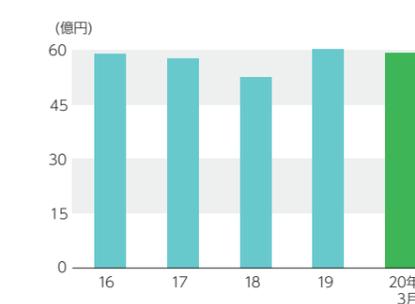
自己資本利益率 (ROE)



総資産利益率 (ROA)

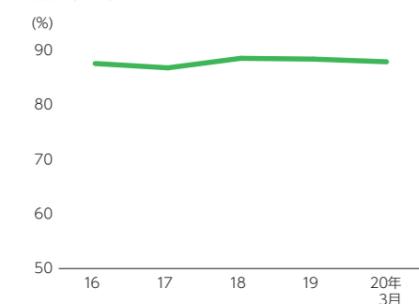


親会社株主に帰属する当期純利益

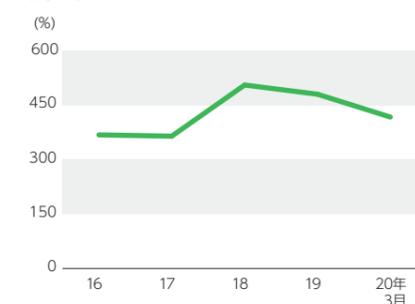


安定性

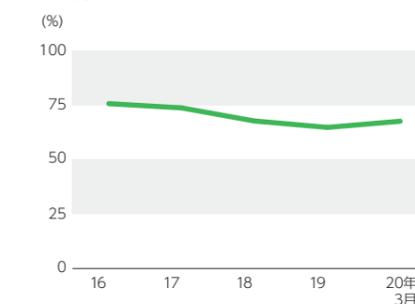
自己資本比率



流動比率

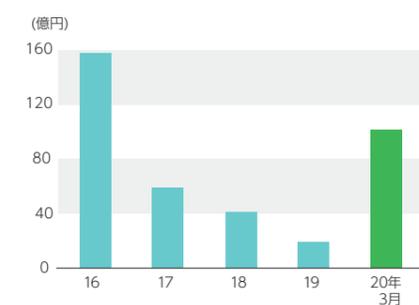


固定比率

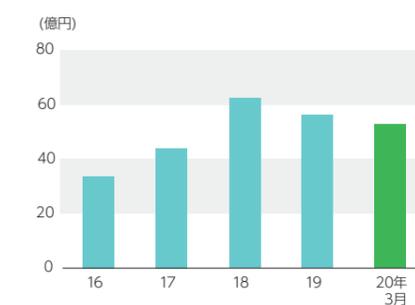


設備投資関連

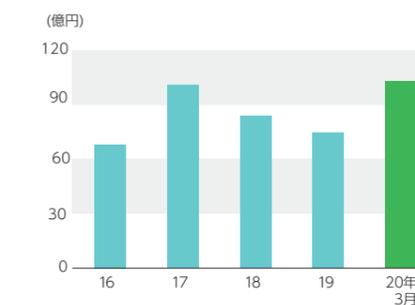
設備投資額



減価償却費

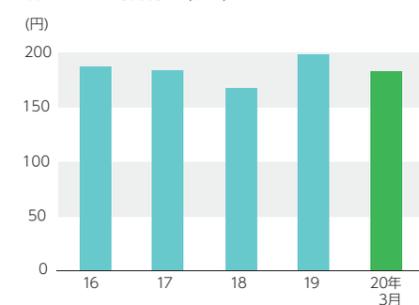


キャッシュ・フロー(営業活動)

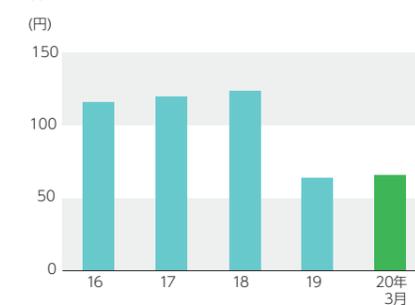


1株当たり関連

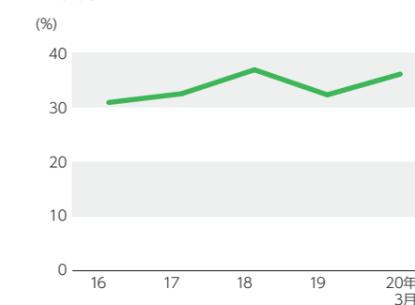
1株当たり当期純利益 (EPS)



1株当たり配当



配当性向



(注)当社は2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。このため、2016年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり当期純利益」を算定しております。

(注)当社は2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。このため、2018年3月期の配当金につきましては、株式分割前の数値で算定しております。

連結財務諸表及びその他の事項の金額については、百万円未満の金額を切り捨てて表示しています。
該当項目に数字がない場合は“-”、百万円未満の場合は“0”と表示しています。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

区 分	前連結会計年度	当連結会計年度
	(2019年3月31日)	(2020年3月31日)
	金 額	金 額
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,336	23,377
受取手形及び売掛金	12,004	11,352
商品及び製品	3,890	3,823
仕掛品	495	366
原材料及び貯蔵品	3,904	3,678
その他	476	631
貸倒引当金	-	△ 0
流動資産合計	44,108	43,229
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	44,668	46,188
減価償却累計額	△ 21,765	△ 23,014
建物及び構築物（純額）	22,902	23,173
機械装置及び運搬具	42,977	43,289
減価償却累計額	△ 31,810	△ 34,523
機械装置及び運搬具（純額）	11,167	8,765
土地	9,609	9,604
建設仮勘定	922	8,995
その他	5,340	5,692
減価償却累計額	△ 3,998	△ 4,380
その他（純額）	1,341	1,311
有形固定資産合計	45,944	51,851
無形固定資産		
ソフトウェア	1,503	1,496
ソフトウェア仮勘定	967	676
電話加入権	13	13
その他	116	113
無形固定資産合計	2,600	2,300
投資その他の資産		
投資有価証券	9,275	7,941
差入保証金	350	356
繰延税金資産	138	168
その他	916	823
貸倒引当金	△ 7	△ 7
投資その他の資産合計	10,673	9,283
固定資産合計	59,218	63,434
資産合計	103,327	106,664

(単位：百万円)

区 分	前連結会計年度	当連結会計年度
	(2019年3月31日)	(2020年3月31日)
	金 額	金 額
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,584	4,675
未払法人税等	1,394	1,060
賞与引当金	386	366
役員賞与引当金	100	100
設備関係支払手形	1,352	572
未払金	951	2,575
その他	417	1,009
流動負債合計	9,187	10,360
固定負債		
長期借入金	285	175
繰延税金負債	1,603	1,232
退職給付に係る負債	349	468
長期未払金	36	36
その他	459	468
固定負債合計	2,734	2,381
負債合計	11,922	12,742
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,123	7,123
資本剰余金	8,336	8,336
利益剰余金	79,770	83,234
自己株式	△ 8,663	△ 8,557
株主資本合計	86,566	90,136
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,693	3,623
繰延ヘッジ損益	127	189
為替換算調整勘定	110	9
退職給付に係る調整累計額	△ 101	△ 141
その他の包括利益累計額合計	4,830	3,681
非支配株主持分	7	103
純資産合計	91,404	93,921
負債純資産合計	103,327	106,664

(単位：百万円)

区 分	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
	金額	金額
売上高	36,658	37,232
売上原価	21,831	21,798
売上総利益	14,827	15,434
販売費及び一般管理費	10,444	10,126
営業利益	4,382	5,307
営業外収益		
受取利息	45	70
受取配当金	85	70
為替差益	25	36
助成金収入	-	274
その他	55	53
営業外収益合計	212	505
営業外費用		
支払利息	-	1
投資事業組合運用損	26	18
自己株式取得費用	58	-
その他	7	3
営業外費用合計	91	22
経常利益	4,503	5,791
特別利益		
固定資産売却益	-	1
投資有価証券売却益	3,998	1,942
特別利益合計	3,998	1,943
特別損失		
固定資産廃棄損	2	5
ゴルフ会員権評価損	-	4
特別損失合計	2	9
税金等調整前当期純利益	8,499	7,725
法人税、住民税及び事業税	2,512	2,194
法人税等調整額	△ 56	40
法人税等合計	2,456	2,235
当期純利益	6,043	5,489
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失 (△)	0	△ 40
親会社株主に帰属する当期純利益	6,043	5,529

(単位：百万円)

区 分	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
	金額	金額
当期純利益	6,043	5,489
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△ 1,881	△ 1,070
繰延ヘッジ損益	65	61
為替換算調整勘定	△ 43	△ 100
退職給付に係る調整額	13	△ 39
その他の包括利益合計	△ 1,846	△ 1,149
包括利益	4,196	4,339
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,196	4,379
非支配株主に係る包括利益	0	△ 40

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	7,123	8,336	75,680	△ 3,759	87,379
当期変動額					
剰余金の配当			△ 1,952		△ 1,952
親会社株主に帰属する 当期純利益			6,043		6,043
自己株式の取得				△ 5,001	△ 5,001
自己株式の処分				97	97
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	-	-	4,090	△ 4,903	△ 812
当期末残高	7,123	8,336	79,770	△ 8,663	86,566

(単位：百万円)

	その他の包括利益累計額						純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計	非支配株主 持分	
当期首残高	6,575	62	154	△ 114	6,677	6	94,063
当期変動額							
剰余金の配当							△ 1,952
親会社株主に帰属する 当期純利益							6,043
自己株式の取得							△ 5,001
自己株式の処分							97
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)	△ 1,881	65	△ 43	13	△ 1,846	0	△ 1,846
当期変動額合計	△ 1,881	65	△ 43	13	△ 1,846	0	△ 2,658
当期末残高	4,693	127	110	△ 101	4,830	7	91,404

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	7,123	8,336	79,770	△ 8,663	86,566
当期変動額					
剰余金の配当			△ 1,983		△ 1,983
親会社株主に帰属する 当期純利益			5,529		5,529
自己株式の取得				△ 1	△ 1
自己株式の処分				106	106
連結範囲の変動			△ 81		△ 81
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)					
当期変動額合計	-	-	3,463	105	3,569
当期末残高	7,123	8,336	83,234	△ 8,557	90,136

(単位：百万円)

	その他の包括利益累計額						純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計	非支配株主 持分	
当期首残高	4,693	127	110	△ 101	4,830	7	91,404
当期変動額							
剰余金の配当							△ 1,983
親会社株主に帰属する 当期純利益							5,529
自己株式の取得							△ 1
自己株式の処分							106
連結範囲の変動							△ 81
株主資本以外の項目の 当期変動額 (純額)	△ 1,070	61	△ 100	△ 39	△ 1,149	96	△ 1,053
当期変動額合計	△ 1,070	61	△ 100	△ 39	△ 1,149	96	2,516
当期末残高	3,623	189	9	△ 141	3,681	103	93,921

連結キャッシュ・フロー計算書

前連結会計年度
(自 2018年4月1日
至 2019年3月31日)

当連結会計年度
(自 2019年4月1日
至 2020年3月31日)

(単位：百万円)

区 分	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー：		
税金等調整前当期純利益	8,499	7,725
減価償却費	5,631	5,283
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	12	69
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△ 42	0
受取利息及び受取配当金	△ 131	△ 141
支払利息	-	1
投資事業組合運用損益 (△は益)	26	18
為替差損益 (△は益)	△ 6	△ 53
有形固定資産売却損益 (△は益)	-	△ 1
有形固定資産処分損益 (△は益)	2	5
投資有価証券売却損益 (△は益)	△ 3,998	△ 1,942
ゴルフ会員権評価損	-	4
売上債権の増減額 (△は増加)	95	641
たな卸資産の増減額 (△は増加)	370	399
仕入債務の増減額 (△は減少)	△ 411	96
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△ 930	535
未収消費税等の増減額 (△は増加)	△ 21	21
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△ 81	△ 104
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	165	94
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	114	106
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△ 8	9
その他	104	△ 21
小計	9,390	12,747
利息及び配当金の受取額	131	139
利息の支払額	-	△ 1
法人税等の支払額	△ 2,075	△ 2,590
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,446	10,295
投資活動によるキャッシュ・フロー：		
定期預金の預入による支出	△ 6	△ 289
定期預金の払戻による収入	7	3
投資有価証券の取得による支出	△ 538	△ 1,163
投資有価証券の売却による収入	4,073	2,356
有形固定資産の取得による支出	△ 1,552	△ 9,767
有形固定資産の売却による収入	-	1
無形固定資産の取得による支出	△ 360	△ 377
投資事業組合からの分配による収入	23	44
貸付けによる支出	△ 0	△ 0
貸付金の回収による収入	0	0
投資その他の資産の増減額 (△は増加)	△ 20	△ 2
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,627	△ 9,194
財務活動によるキャッシュ・フロー：		
長期借入金返済による支出	△ 113	△ 110
自己株式の処分による収入	108	106
自己株式の取得による支出	△ 5,001	△ 1
配当金の支払額	△ 1,952	△ 1,984
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,958	△ 1,989
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 51	63
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,063	△ 825
現金及び現金同等物の期首残高	20,840	22,903
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	580
現金及び現金同等物の期末残高	22,903	22,658

営業所

- 1 札幌営業所**
北海道札幌市中央区北三条西3-1 14F 〒060-0003
TEL:011(251)2730 FAX: 011(251)2731
- 2 盛岡営業所**
岩手県盛岡市向中野字細谷地59-1 〒020-0851
TEL: 019(656)9660 FAX: 019(656)9661
- 3 仙台営業所**
宮城県仙台市宮城野区岡田西町3-1 〒983-0004
TEL: 022(287)5333 FAX: 022(287)5335
- 4 宇都宮営業所**
栃木県宇都宮市双葉1-13-46 〒321-0164
TEL: 028(684)1715 FAX: 028(658)6164
- 5 大宮営業所**
埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-10-16 14F
〒330-0854
TEL: 048(788)3230 FAX: 048(788)3232
- 6 千葉営業所**
千葉県千葉市若葉区都賀2-12-12 〒264-0025
TEL: 043(232)1411 FAX: 043(232)1285
- 7 東京支店**
東京都文京区本郷3-20-9 〒113-0033
TEL: 03(3813)8141 FAX: 03(3813)8140
- 8 多摩営業所**
東京都国分寺市戸倉4-49-16 〒185-0003
TEL: 042(320)5511 FAX: 042(320)5513
- 9 横浜営業所**
神奈川県横浜市港北区鳥山町482-1 〒222-0035
TEL: 045(471)7701 FAX: 045(471)7704
- 10 新潟営業所**
新潟県新潟市中央区弁天橋通3-9-3 〒950-0925
TEL: 025(287)7110 FAX: 025(287)7116
- 11 金沢営業所**
石川県金沢市駅西新町1-16-22 〒920-0027
TEL: 076(223)2351 FAX: 076(223)5505
- 12 静岡営業所**
静岡県静岡市駿河区見瀬241 〒422-8057
TEL: 054(284)6688 FAX: 054(284)6855
- 13 松本営業所**
長野県松本市村井町南2-10-7 〒399-0036
TEL: 0263(85)3280 FAX: 0263(86)7847
- 14 名古屋支店**
愛知県名古屋市名東区文教台1-508 〒465-0012
TEL: 052(778)2711 FAX: 052(778)2720
- 15 京都営業所**
京都府京都市伏見区竹田西段川原町69
〒612-8429
TEL: 075(606)1411 FAX: 075(606)1499
- 16 大阪支店**
大阪府大阪市西区江戸堀2-1-1 13F 〒550-0002
TEL: 06(6445)8655 FAX: 06(6445)8670

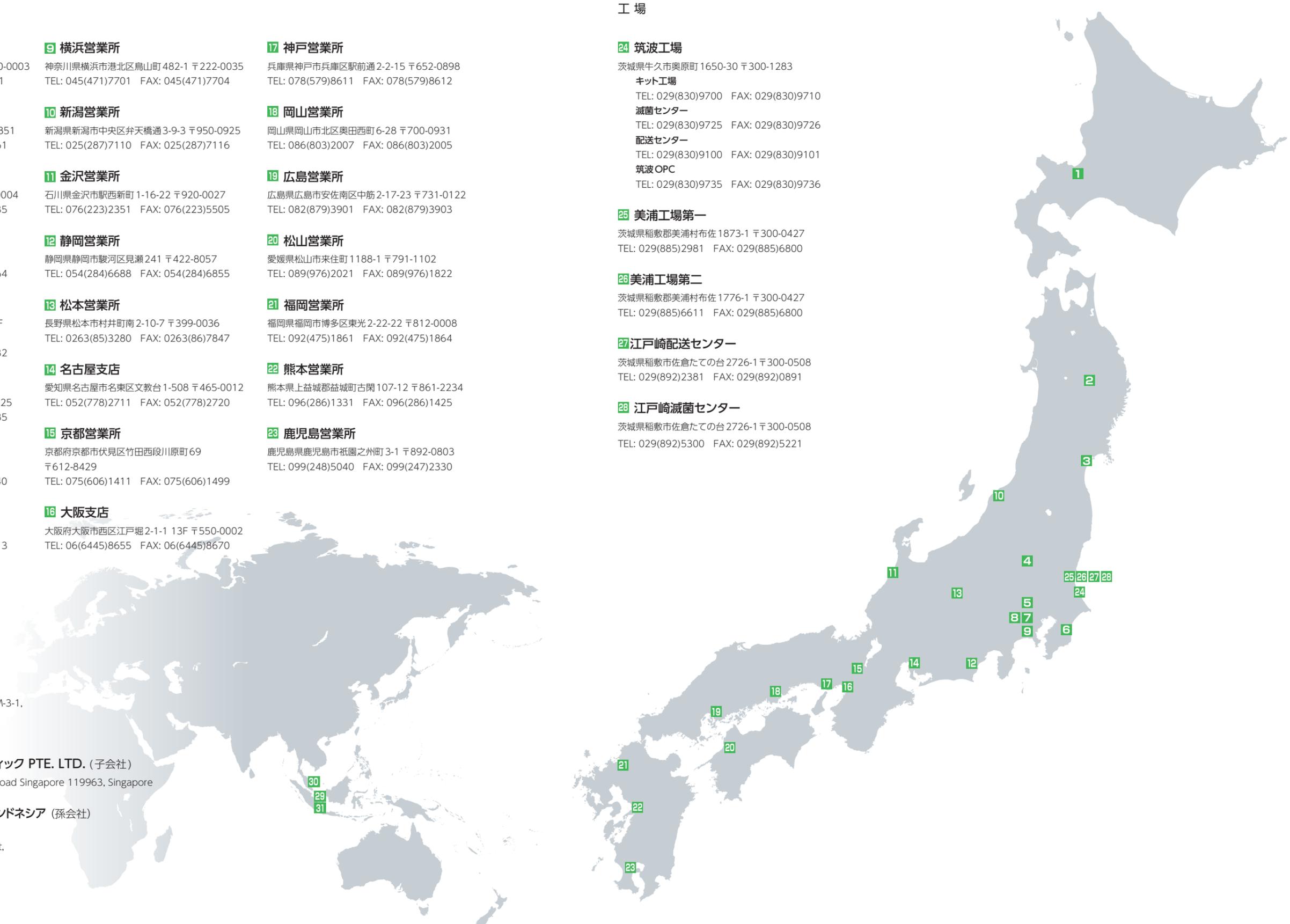
- 17 神戸営業所**
兵庫県神戸市兵庫区駅前通2-2-15 〒652-0898
TEL: 078(579)8611 FAX: 078(579)8612
- 18 岡山営業所**
岡山県岡山市北区奥田西町6-28 〒700-0931
TEL: 086(803)2007 FAX: 086(803)2005
- 19 広島営業所**
広島県広島市安佐南区中筋2-17-23 〒731-0122
TEL: 082(879)3901 FAX: 082(879)3903
- 20 松山営業所**
愛媛県松山市来住町1188-1 〒791-1102
TEL: 089(976)2021 FAX: 089(976)1822
- 21 福岡営業所**
福岡県福岡市博多区東光2-22-22 〒812-0008
TEL: 092(475)1861 FAX: 092(475)1864
- 22 熊本営業所**
熊本県上益城郡益城町古閑107-12 〒861-2234
TEL: 096(286)1331 FAX: 096(286)1425
- 23 鹿児島営業所**
鹿児島県鹿児島市祇園之州町3-1 〒892-0803
TEL: 099(248)5040 FAX: 099(247)2330

工場

- 24 筑波工場**
茨城県牛久市奥原町1650-30 〒300-1283
キット工場
TEL: 029(830)9700 FAX: 029(830)9710
滅菌センター
TEL: 029(830)9725 FAX: 029(830)9726
配送センター
TEL: 029(830)9100 FAX: 029(830)9101
筑波OPC
TEL: 029(830)9735 FAX: 029(830)9736
- 25 美浦工場第一**
茨城県稲敷郡美浦村布佐1873-1 〒300-0427
TEL: 029(885)2981 FAX: 029(885)6800
- 26 美浦工場第二**
茨城県稲敷郡美浦村布佐1776-1 〒300-0427
TEL: 029(885)6611 FAX: 029(885)6800
- 27 江戸崎配送センター**
茨城県稲敷市佐倉たての台2726-1 〒300-0508
TEL: 029(892)2381 FAX: 029(892)0891
- 28 江戸崎滅菌センター**
茨城県稲敷市佐倉たての台2726-1 〒300-0508
TEL: 029(892)5300 FAX: 029(892)5221

海外拠点

- 29 P.T. ホギインドネシア (子会社)**
MM2100 Industrial Town, EPZ., Block M-3-1,
Cikarang Barat, Bekasi 17520,
West Java, Indonesia
- 30 ホギメディカル アジア パシフィック PTE. LTD. (子会社)**
PSA Building #14-01A, 460 Alexandra Road Singapore 119963, Singapore
- 31 P.T. ホギメディカル セールス インドネシア (孫会社)**
Jl. Dr. Saharjo No. 45 Blok A 57,
Kelurahan Manggarai, Kecamatan Tebet,
Jakarta Selatan 12850, Indonesia





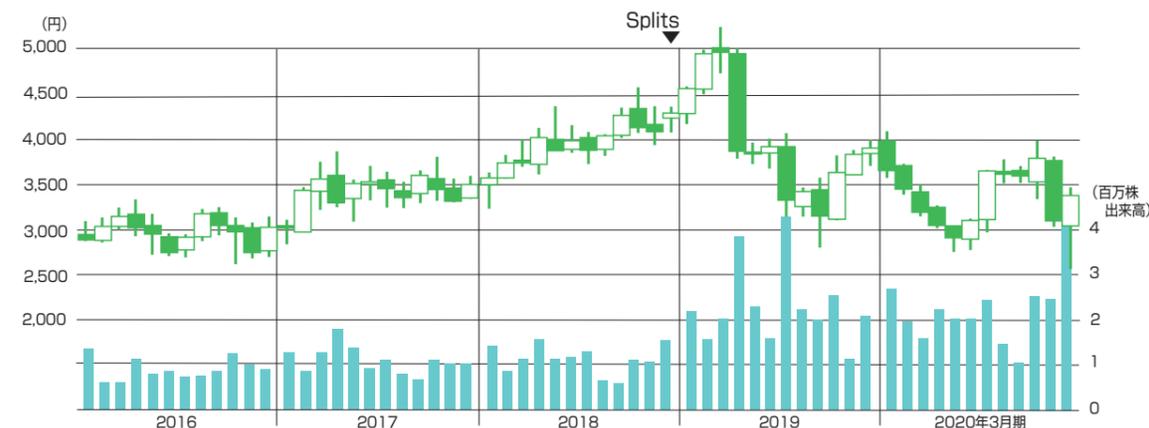
役員及び執行役員 (2020年6月19日現在)

代表取締役社長 最高経営責任者 (CEO)	保木 潤一	社外取締役	上杉 潔	執行役員	
取締役 生産本部長	佐々木 勝雄	社外取締役	井上 一郎	生産本部長 兼 調達部 部長	小泉 亮
取締役 第一営業部 部長 兼 第一グループ 部長	小林 琢也	常勤監査役	布施 郁夫	海外事業部長	小松 久人
取締役 第二営業部 部長 兼 第六グループ 部長	藤本 渉	社外監査役	築瀬 捨治	管理本部長 兼 経営企画部 部長 兼 営業管理部 部長 兼 管理部 部長	川久保 秀樹
		社外監査役	飯塚 昇	第二営業部 第四グループ 部長 兼 第五グループ 部長 兼 大阪支店長	岩崎 正人
				研究開発本部長	石川 皇
				第一営業部 第三グループ 部長 兼 東京支店長	和田 豊

会社概要 (2020年3月31日現在)

商号 (英文名)	株式会社ホギメディカル HOGY MEDICAL CO., LTD.	株主数	6,670名
本社所在地	東京都港区赤坂2丁目7番7号 〒107-8615 TEL: 03 (6229) 1300 (代) http://www.hogy.co.jp	発行済株式総数	32,682,310株
設立	1961年4月3日	決算期	3月31日
資本金	7,123,263,500円	定時株主総会	6月
従業員数	1,538名(連結)	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
営業所	23ヶ所	会計監査人	EY新日本有限責任監査法人
上場取引所	東京証券取引所第1部		東京都千代田区有楽町一丁目1番2号
コード番号	3593		東京ミッドタウン日比谷 日比谷三井タワー

株価チャート・株価の推移



(注)当社は2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。このため、2015年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「最高額」「最低額」を算定しています。

	2016	2017	2018	2019	2020年3月
最高 (円)	3,325	3,835	4,570	5,220	4,090
最低 (円)	2,625	2,825	3,240	2,804	2,583

大株主の状況

	所有株式数	持株比率
■保木 将夫	4,746,046株	14.52%
■日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	1,682,300株	5.14%
■STATE STREET CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM44 (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	1,210,900株	3.70%
■株式会社ホキ美術館	1,135,448株	3.47%
■STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505025 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	1,101,600株	3.37%
■日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,051,200株	3.21%
■THE BANK OF NEW YORK 134105 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	930,740株	2.84%
■SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	923,575株	2.82%
■保木 潤一	874,200株	2.67%
■日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口 9)	666,900株	2.04%

(注)当社は自己株式 2,460,787株を保有しています。

※2020年3月31日現在

所有者別状況

	株主数	所有株式数	所有割合 (%)
個人	6,352	9,081,540	27.79
金融機関	34	6,199,140	18.97
金融商品取引業者	30	177,099	0.54
外国法人等	175	12,736,886	38.97
その他(含む自己名義株式)	79	4,487,645	13.73
合計	6,670	32,682,310	100.00

株式会社 **ホギメディカル**